

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	C-120	14-036
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Quality of life depends on the drinking pattern in alcohol-dependent patients. アルコール依存症患者において QOL は飲酒パターンに依存する		
<b>執筆者</b>		
Daepfen JB, Faouzi M, Sanchez N, Rahhali N, Bineau S, Bertholet N.		
<b>掲載誌</b>		
Alcohol Alcohol. 2014 Jul-Aug;49(4):457-65. doi: 10.1093/alcalc/agu027.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
QOL、アルコール依存症、飲酒パターン		24863264
<b>要 旨</b>		
<b>背景と目的：</b> アルコール依存症患者において、健康に関連する生活の質（QOL）は健康な集団と比較して低下している。この分析の目的は、アルコール依存症を有する成人患者において、通常診療におけるアルコール依存症治療開始後 24 ヶ月間の健康関連の QOL とベースラインの要因の影響を背景として主要な飲酒行動を元にした飲酒パターンとの関連を示すことである。		
<b>方法：</b> アルコール依存症の治療を開始した患者を前向きに追跡した観察研究である CONTROL では健康関連 QOL は Medical Outcome Study 36-Item Short-Form Survey(MOS-SF-36)を用いてベースラインとその後 2 年間、年 4 回の評価を実施した。対象者は 160 名のアルコール依存症患者で、65.6%が男性、平均(標準偏差)年齢は 45.6(12.0)歳であった。飲酒データは TimeLine Follow-Back(注：日々の飲酒量を記録しそれを元に評価する方法)にて集めた。自己報告の飲酒量に基づいて、3 集団に分類した：非飲酒群 52 名 (32.5%)、中等量飲酒群 64 名 (40.0%)、大量飲酒群 44 名 (27.5%)。各時点での精神及び身体的 MOS-SF-36 スコアと関連する因子の特定には混合効果線形回帰分析を用いた。		
<b>結果：</b> MOS-SF-36 精神スコア(範囲：0～100、平均水準 50)の平均値(標準偏差)はベースラインで 35.7(13.6)点(ほぼ禁酒群 40.4(14.6)点、中等量飲酒群 35.6(12.4)点、大量飲酒群 30.1(12.1)点)であった。3 ヶ月時、12 か月時、24 ヶ月時の全対象者のスコアはそれぞれ、43.1(13.4)、47.3(11.4)、46.6(11.1)点(非飲酒群で 47.4(12.3)、51.7(9.7)、49.2 (11.6)点、中等量飲酒群で 44.2(12.7)、44.8(11.9)、45.7(11.9)点、大量飲酒群で 35.1(12.9)点、44.1(11.3)、43.7(8.8))に改善した。混合効果線形回帰分析では 2 年間の MOS-SF-36 精神面スコア低下は、ベースライン時に非飲酒群と比較して大量飲酒群(-6.97 点 (P<0.001))あるいは中等量飲酒群(-3.34 点 (P=0.018))であること、女性であること (-3.73 点 (P=0.004))、Beck Inventory 尺度スコアが 8 以上であること (-6.54 点 (P<0.001))と有意な関連があることが示された。MOS-SF-36 身体面スコアの平均値 (標準偏差) はベースライン時で 48.8 (10.6) 点で、追跡期間を通じて同様であり 3 群に差はなかった。混合効果線形回帰単変量解析にて、約 2 年間で MOS-SF-36 身体面スコアは、非飲酒群に比べて大量飲酒群 (+4.44 点 (P=0.007)) で増加した。検討した他の因子と身体スコアとの関連は認めなかった。		
<b>結論：</b> アルコール依存症患者では、治療開始後、急速に精神面の QOL は改善し、24 か月にわたって持続した。この改善は飲酒パターンと関連し、大量飲酒者ではわずかな関連しか見られなかった。身体面の QOL はおおむね正常範囲内で、飲酒パターンと関連はなかった。		